

# 初のドッグラン開放

## 東雲高 校内の一角に手作り

篠山東雲高校でこのほど、動物の飼育などについて学ぶ「アグリサービス類型」の2年生7人がグラウンドにドッグランを手作りし、一般に開放する初めてのイベントがあった。保護者から「犬をのびのびと走り回らせる場がない」という声を受け、企画。12組が参加し、ドッグトレーナーからしつけの仕方などを教わった後、愛犬を自由に走り回らせていた。



飼い主や生徒らが見守る中、ドッグランで気ままな時間を過ごす犬。丹波篠山市福住で

### 12組参加 愛犬「のびのび」

犬の飼育などについて学ぶ授業「バイオコミュニケーション」の一環。程よく雑草が生えたグラウンドの一角(約450平方メートル)に高さ約1.5メートルのネットを張って囲った。内側には朝礼台にはしごを付け、すべり台をイメージしたアトラクションも設けた。犬のしつけ方教室「Guttie integrate(イテグレート)」(福住)を営むさんら3人のドッグトレーナーが講師を務め、生徒たちもトレーナーの話に耳を傾けた。犬の安全を考慮し、入場時間は、犬の大きさで分けた。

さんらは、ドッグランに入る前に、飼い主と共に参加した。えやしつけについて指導。「ドッグランに犬を入れるのは酔っ払いを野に放っているのと同じ」と注意喚起。危険なものがないか、飼い主と犬と一緒にドッグランを回って確認した。広々としたドッグランを走り回ったり、他の犬とじゃれあったりして気ままに過ごす愛犬の姿に、飼い主たちは「かわいい」「えらいえらい」と目を細めていた。

さんらは、それぞれの犬の性格に応じたしつけに関する飼い主の相談にも乗っていた。「怒る場合は、犬の動作が終わった後では駄目。動作をするまではオッケーだと思ってしまう。動作をする前に怒ること」などと説いていた。さんは「ドッグランは社交の場であり、いろんな犬がいるというところを観察する場でもある」と話していた。特に元気よく走り回っていたジャック・ラッセル・テリアの「マイロ」と共に参加したさん(47)「住吉台」は「他の犬との関わり方などについて、いろいろと勉強できて良かった」と顔をほころばせた。同類型の君(丹南中出身)は「地域との交流がいかに大切だった。学校で飼育している犬の学習を深め、ドッグランの活動を継続していきたい」と話した。

2022年12月8日  
丹波新聞